

干立憲章制定委員会主催 「干立村ゆいぴとう憲章」 制定記念連続セミナー

文化力のある島は滅びない

—西表島干立の昔から学ぶ地域づくり

講師：安渢遊地（山口県立大学名誉教授）・安渢貴子（生物文化多様性研究所）

「命をつなぎ、知恵と文化を育んできた自然に感謝し、先人たちが紡いできた結の心と伝統文化を誇りに、村づくりを推進します」という理想を掲げて2025年に制定された「干立村ゆいぴとう憲章」を、いきいきと働くものとするために、住民主体の勉強会を開催します。

講師には、1974年から半世紀以上にわたって西表島の人と自然の関係を研究してきた、安渢遊地氏と安渢貴子氏を迎えて、その研究の成果を地元のみなさんと共有します。古くから島に伝えられた知恵のかずかずに耳をかたむけ、いまわたしたちが直面している課題をめぐって、自由に話し合いましょう。

※会場は2回とも干立公民館です。

第1回

1月9日（金） 19:30～21:30

「干立村に通つて50年！

安渢遊地・貴子夫妻の見た島の変化」

1980年代から90年代にかけての、干立・祖納での、祭りを中心として、田植えなどの生活を懐かしの写真で紹介します

第2回

1月13日（火） 19:30～21:30

「干立の誇りはなに？

これからも繋いでいきたいもの」

昔を知り、これからの未来に伝えていきたいシマのものはなにがありますか？

講師プロフィール

安渢遊地（あんけい・ゆうじ）

山口県立大学名誉教授。人類学専攻。京大理博。西表島では「バカセ」と呼ばれ、石垣金星氏とともに「西表をほりおこす会」を立ち上げる。おもな著書に宮本常一との共著『調査されるという迷惑』（みづのわ出版）、『西表島の農耕文化』（法政大学出版局）など。

安渢貴子（あんけい・たかこ）

生物文化多様性研究所所員。生態学専攻。理学博士。夫の安渢遊地とともに、八重山と熱帯アフリカで学び、現在は、山口市北部で家族農業。おもな著書に『ソテツをみなおす』（ボーダーインク）等。